

「同じクラブでいいの？ 違うクラブの方がいいんじゃない？」

昔、サッカーのナショナル・チームに、千葉の佐藤勇人と広島の佐藤寿人というふたごのJリーガーが二人揃って招集されたことがありました。また、広島には同じくふたごの森崎和幸・森崎浩司もいて、まるでツインズ・チームです。そういえば、アニメの『キャプテン翼』の第22話「ふたごのストライカー」には、ふたごの立花兄弟を擁する花輪FCが出てきて、何と立花兄弟は一つのボールを二人で同時に蹴るのだぞ！！

他のスポーツでも、たとえば大昔ならマラソンの宗兄弟やスキー複合競技の荻原兄弟、野球の亀山兄弟などふたごで同じスポーツを極めた仲間たちが大勢いました。今でも、甲子園の高校野球などで時折ふたご選手を見かけます。一度などは、東京地区予選で別々の高校に通っていたふたごが直接対決し、バッターのふたごがピッチャーの相棒からホームランを打ち、話題になりました。

こうした話を聞いた時に、僕はふたごで同じスポーツをするのはどんな感じなんだろうと、かねがね不思議に思っていました。というのは、僕たちは中学に入るとき、違うクラブを選んだからです。小学校のときは余り考えずに元気に一緒に野球をやっていましたが、中学では相棒が野球部を選んだので、僕は同じスポーツを避けて、バスケット部に入りました（すぐに辞めてしまいましたが）。本当は僕も野球部に入りたかったのですが、何となく棲み分けしようとしたわけです。

子どもの成長プロセスにおいて、多くのお母さんお父さんが心配することに、クラブ選びがあるようです。今申し上げた僕たちの経験から言っても、小学生の頃はまったく無邪気に同じ競技をしたりできるのですが、中学になるとがぜん問題はシリアスになってきます。ちょうど自我の形成期、自分を確立していく時期ですので、それぞれのプライドやアイデンティティと微妙に絡む身体活動・スポーツは、結構大きな転換点になるのです。ですから、当然お母さんお父さんも気をつかって、二人が同じクラブに入って、片一方がレギュラーになりもう一方がレギュラーになれなかったらどうしよう、などと思ひ悩むわけです。男女のふたごでしたら、あるいは陸上競技や水泳のように自分の記録向上を目指す個人競技の場合なら、比較的心配は少ないのですが、同性のふたごとなれば、悩みは尽きません。これは、一卵性・二卵性を問わないようです。二卵性なら、遺伝子が違うのだから能力差があるのは当然だとも考えられるのですが、本人たちはそんなに簡単に割り切ることはできません。そして、まわりにとってはふたごはふたごですから、無常にも比較し続けます。一卵性の場合も、確かに遺伝的素養はほとんど同じなのですが、出生体重の差や性格の差、そこまでの経験の差などによって、運動能力は違ってきます。

ここまで書くと、多くの方は、それなら「同じクラブでいいの？ 違うクラブの方がいいんじゃない？」とアドヴァイスして、なるべく違うクラブにする方が無難なのではと思われるかもしれません。でも、本当にそうでしょうか？

実は、クラブ活動だけに限らず、ふたごは色々な局面で、二人で上手に棲み分けをします。言ってみれば分業、役割分担です。大学に入るとき理系と文系に分かれたり、就職のとき違った職業を選んだりします。それだけではなく、趣味や友達の傾向など、微妙な棲み分けを知らず知らずのうちにしています。もちろん、仲良く同じようなことをしたり、同じようなことを選択することもあります。しかし、今までの人生をよく考えてみると、重要な局面では、それぞれが自分の適性や自分らしさを考えた感じ取ったりしながら、物事を決めてきたように思えます。そして、その結果が棲み分けになってい

る場合が多いのです。

したがって、クラブのことに限っては、そうした人生の重要な局面の一つに過ぎないと理解してみるとよいと思います。沢山ある選択の一つですから、場合によっては同じ選択をする場合もあるでしょうし、また棲み分けをする場合もあるでしょう。確かに違うクラブを選択するふたごの方が多いでしょうが、同じクラブを選ぶふたごたちも沢山います。そして、同じクラブを選択したふたごたちは、レギュラー争いや上達の具合を比較される恐れをかならず自覚しているはずですが、それでも、自分の好みや特性を考えて結論を出したのだと思います。僕としては、そうした決心の一つ一つを尊重したいです。また、片一方が活躍したりしたときなどは、遠慮なく褒めてやりたいです。その上で、もう一人にも「次はがんばってね」とさりげなく声をかけてやりたいと思います。もちろん、本人はきっと不機嫌な顔をしたり、うっとうしがることではしょうが、心の奥底では嬉しいはずですが、びくびくしないで自然に声をかけてみてください。変に気を遣う方が嫌なものです。

もっとも、そうした事態を余り考えないで、「Aちゃんがやるなら僕もやる」、「Bちゃんがやるならわたしもやる」、などと言っているようでしたら、先に待っている現実を上手に優しく伝えてやってください。でも、最終的な判断・決定はふたごたちを信じて、自分たちに任せてやってください。クラブ選びは、長い人生に待ち構えているさらに難しい選択の予行演習のようなものですから、ふたご本人たちの意思を第一に考えてやりたいと思います。クラブ活動において、たとえ色々と厳しいことや辛いことがあったとしても、それは必ず後の人生を支えるものになるはずですが、ここはお母さんお父さんの非常に苦しいところですが、ど〜んと構えてふたごを信じてやってください。

『ツインズぷらす』第21号（多胎育児サポートネットワーク）から転載・修正